

読書雑感

明桜館高校赴任前の職場にはバスで通っていました。バスに乗ると、国道3号線沿いにある高校の生徒ともよく出くわしました。大半の高校生は、乗るとすぐスマホを取り出し音楽を聴くか画面をのぞき込んでいました。職場に向かう大人たちも大半は眠っているかスマホを扱っていました。たまに、空いているバスで文庫本を広げて読む高校生に出会うと何かしら嬉しい気持ちになりました。

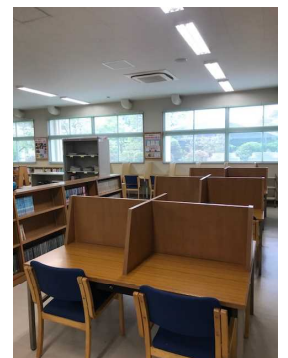
高校の片道1時間のJR通学の頃を思い出しました。

連休前に本を借りようと思い、本校の図書館へはじめて入りました。本を探していると二十数年前に読んだ、濱里忠宣著「心の風景」を見つけました。手に取りその場でページをめくると、昔感動した文章に出会いました。早速、数学科の中村先生に紹介し、連休後どこが印象に残りましたかと聞いたところ、私と同じところが印象に残ったと話されたので嬉しい気持ちになりました。

それは、濱里先生が教師2年目の離島の高校で免許外の数学の授業を担当した時の“教師の危機は、できない子の気持ちを分かろうとする心が薄れたときから始まる”という書き出しの「反転図形」というタイトルがつけられたところでした。**高1の200点満点の数学の実力テストで答案用紙を返却された時の気持ちを思い出しました。(点数まではっきり覚えていますが、とてもここには書けません。)**

「二流が一流を育てる」の著者 元プロ野球選手の内田順三さんのコラムに“花にとって水が大切なように、野球には基本、人生には本が大切”とありました。**まだ、バーコードで図書が整理されていない時代のM高校、K高校勤務時に図書貸し出しカードに自分の名前を書くのが楽しかった頃を思い出しました。**

生徒の皆さんには朝読書の10分間を大事にして、本を読むことの素晴らしさを知ってもらいたいと思います。



明桜館高校図書館